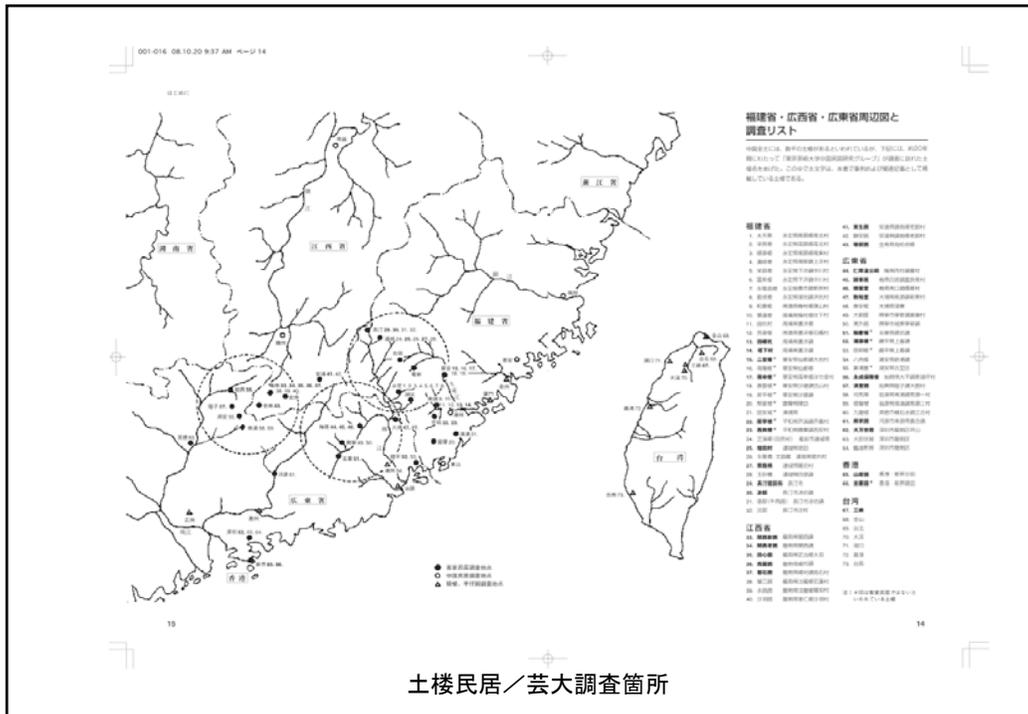


Hakka Tulou Forum 2011

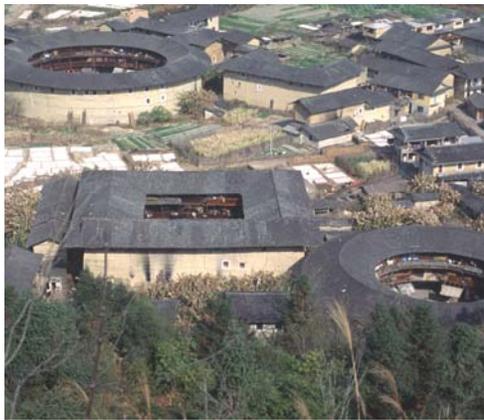
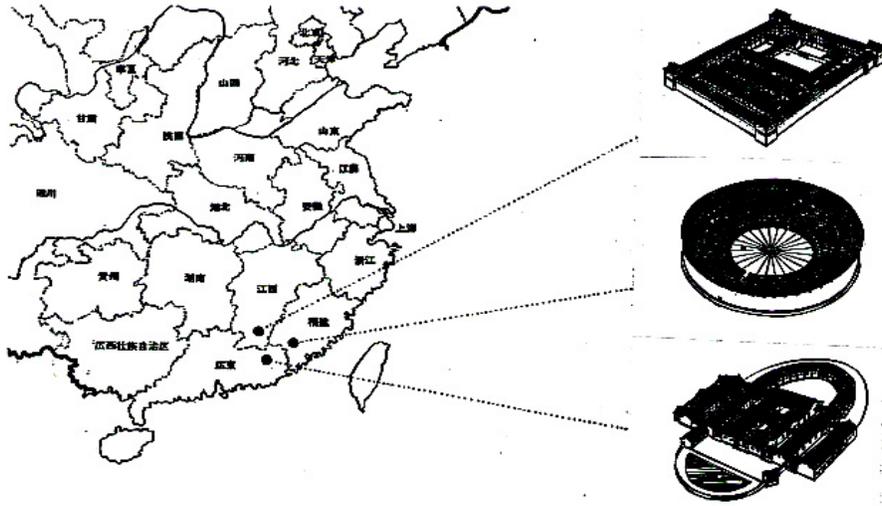
客家民居の空間と類型
SPATIAL ORDER AND TYPOLOGY OF HAKKA DWELLINGS

建築家・東京芸術大学建築科名誉教授
Architect, Tokyo University of the Arts
片山和俊
Kazutoshi Katayama

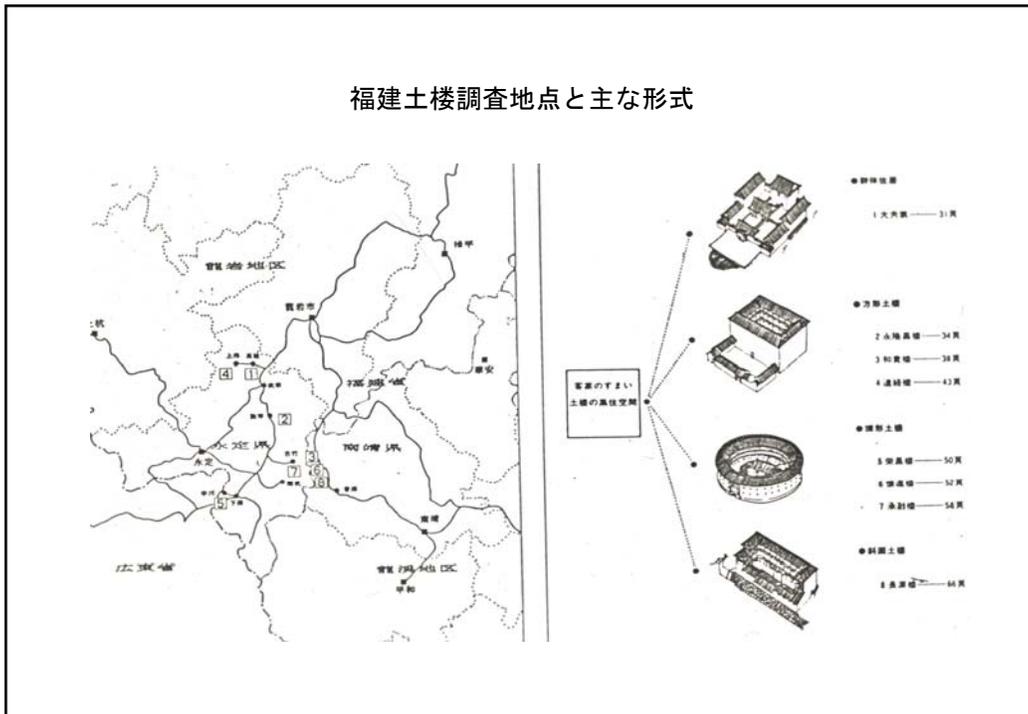


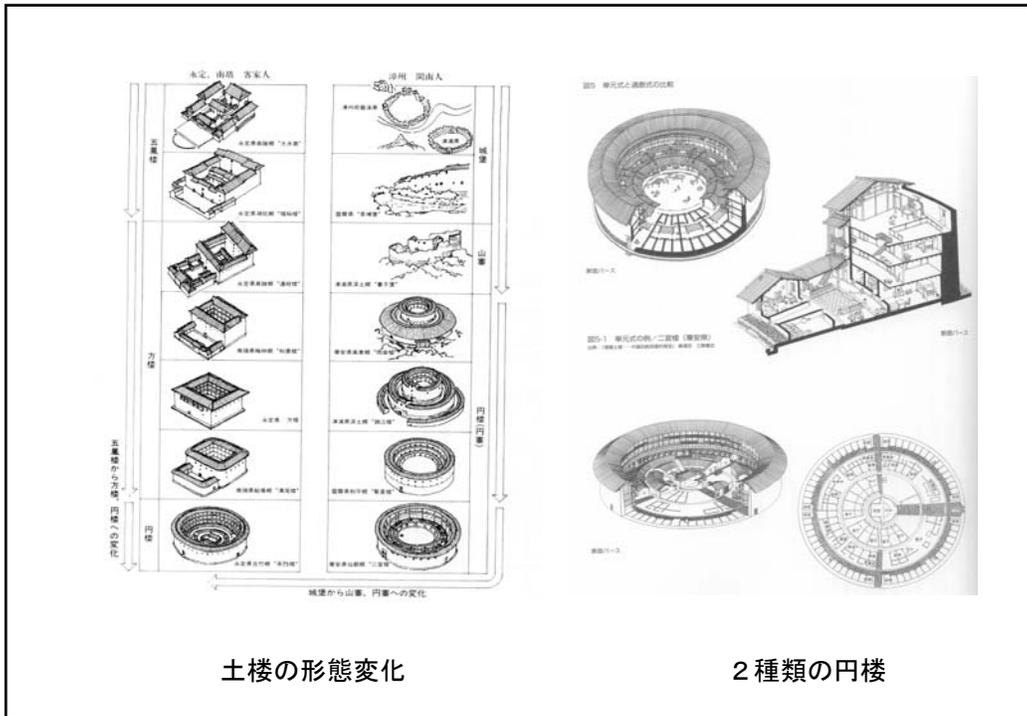
1. 客家民居の類例

三省と典型的な客家民居形式



客家集落





土楼の形態変化

2種類の円楼



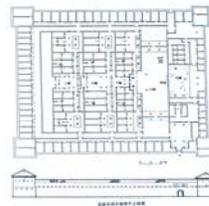
厥寧楼



関西新囲



燕翼囲



東生囲



■ 江西省土圍類型

類型	平面例	事例	平面例	事例
中圍		関西新囲 東生囲 梅家園 柳家園		驛石園 回心園
山圍		高家村		関西老園

江西土圍の類型

- 特殊な位置——乱れ多く守りにくい

 山地から陥落、南面、そして中圍が北方に置かれて見え、イメージが乱れ多い。水運で中圍に広がる。中国内陸部発展の地、正南山もこの近くにある。
- 方形土圍が多い——類型はあるが数は少ない

 多様な類型の展開は見られない。もっぱら方形土圍の類型と大小例が多く、他の事例はあっても少ない。
- 平地が広がる山地にある——巨大な土圍規模がつくれる環境

 農地ではあるが、稲作土圍のような平地ではない。高層のような平地の地形が続く。巨大な建築が比較的つくりやすい。
- 基本構造と自由な展開——砲臺を守り、風水を守る

 外圍から戦いながら守り、砲臺の空間を設け、あとはその環境や条件に合わせて発達するというつくり方。風水に配慮している。
- 戦う住居——巨大な戦艦のイメージに近い

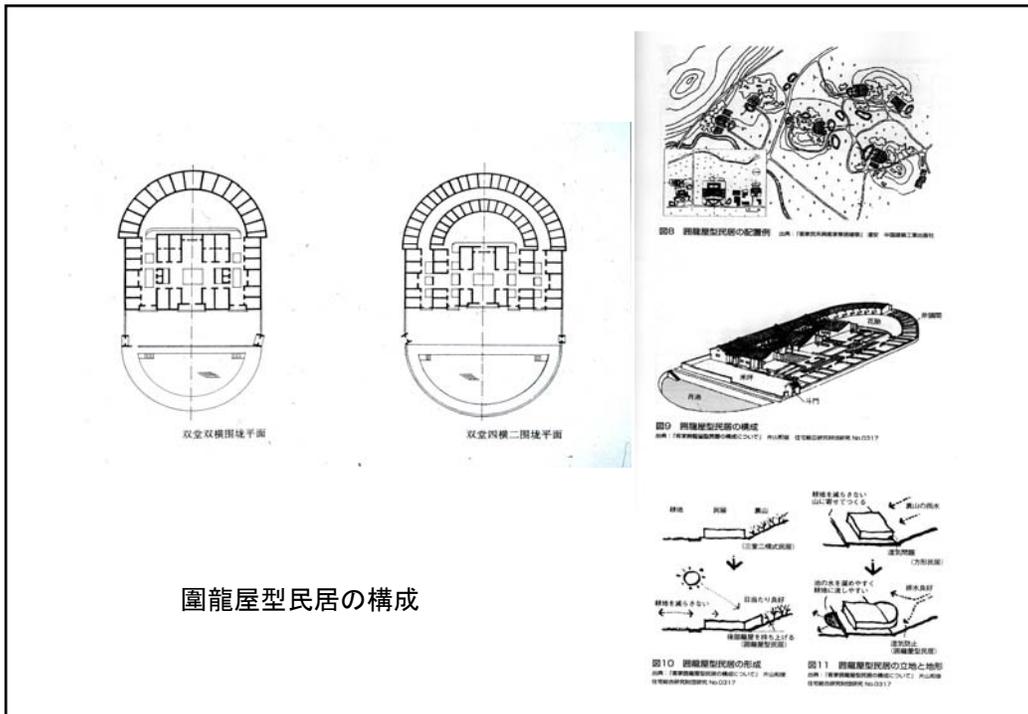
 農園の山地を半島に見なせば、広い海原に停泊する戦艦や、船団の中の企業戦艦のような存在が土圍である。
- 細部のデザイン——守りと戦いから生じた外観

 角の櫓楼、出入口、小さく開いた銃口のデザインなど、細部のデザインの違いが見るべきところはない。

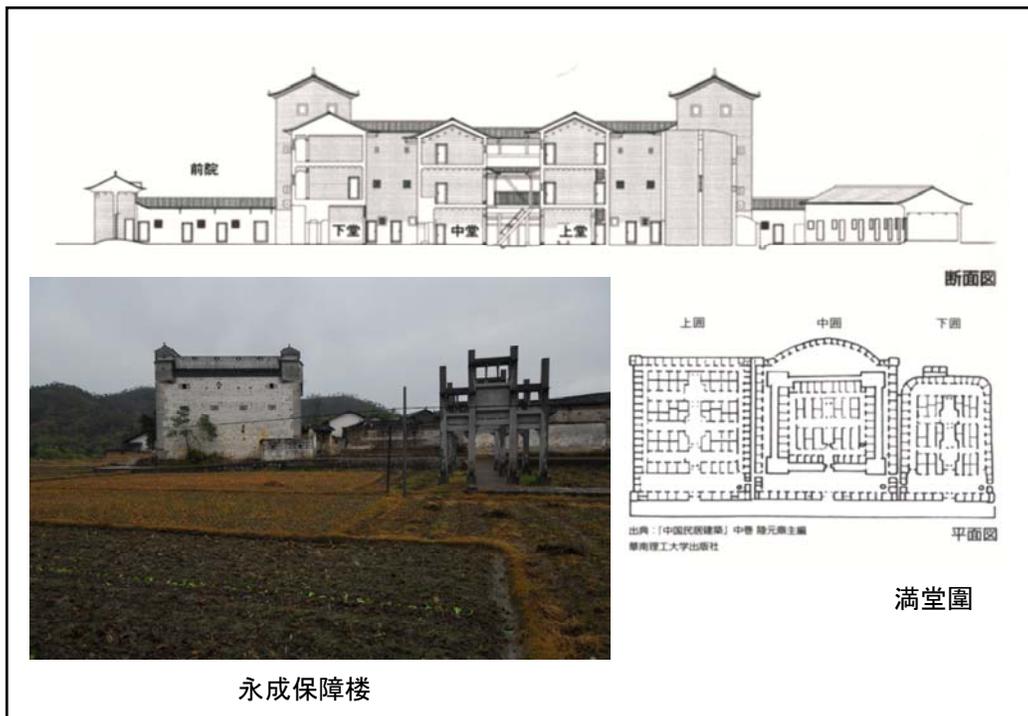
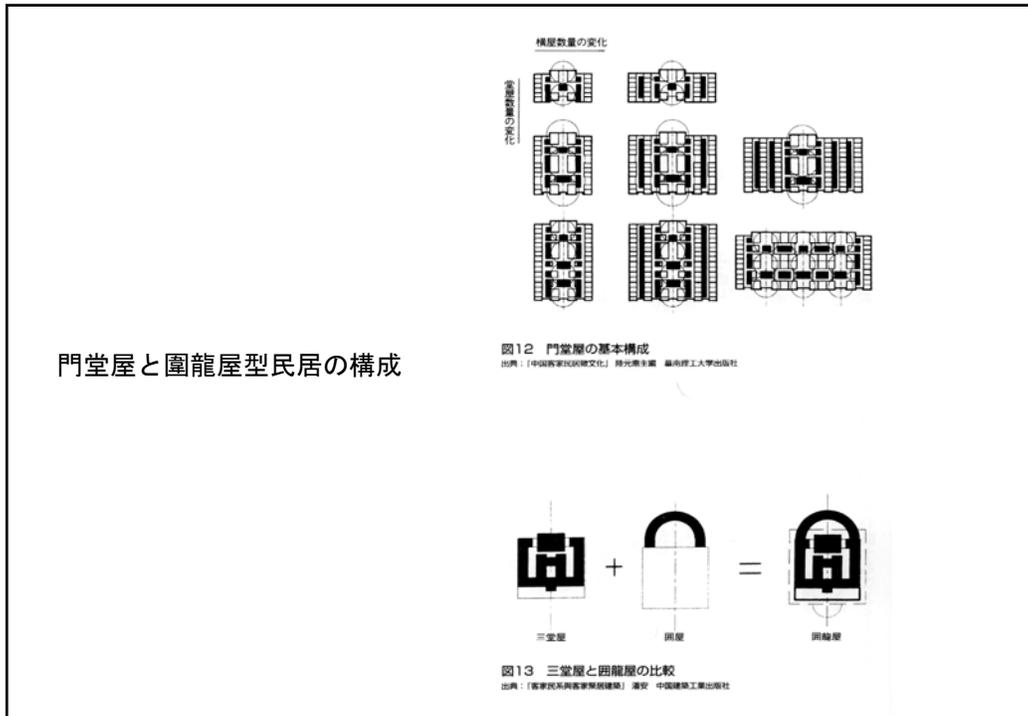
江西土圍の特徴



徳馨堂正面と後庭一圍龍屋



圍龍屋型民居の構成





大万世居



吉坑世居

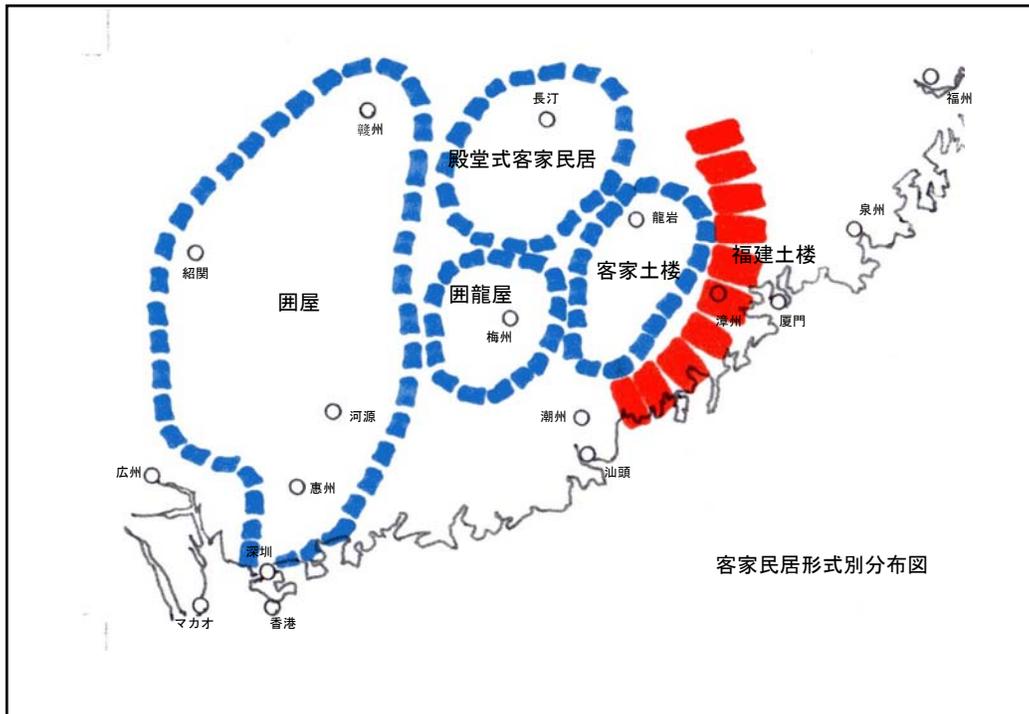
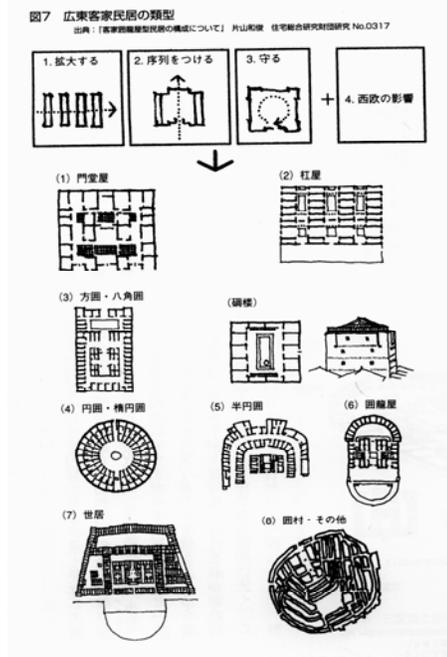


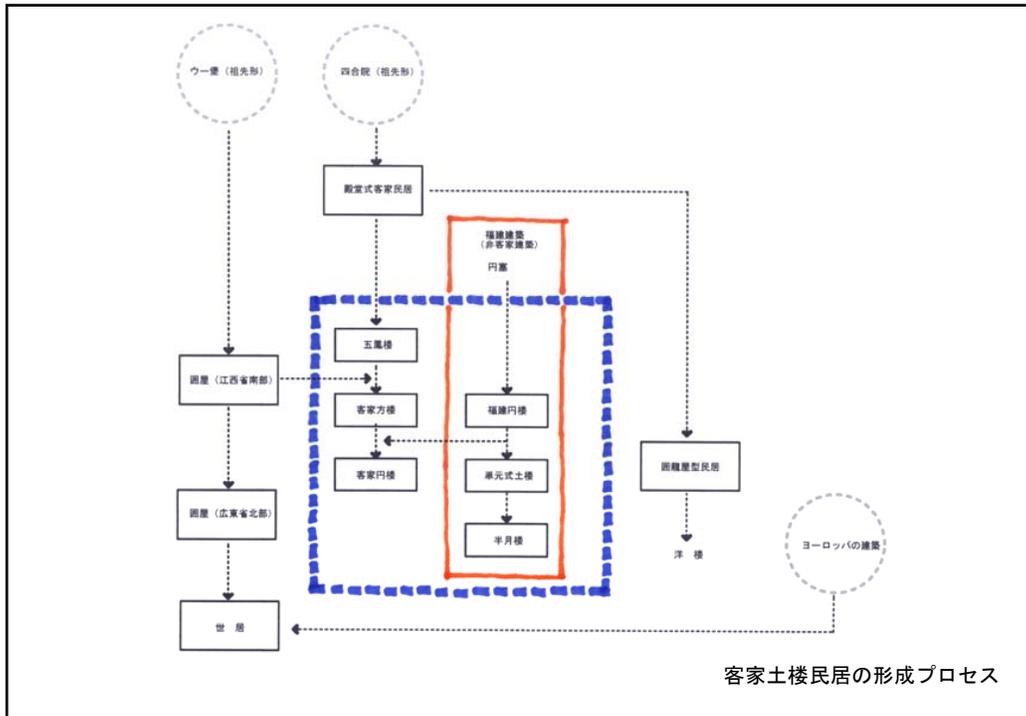
香港沙田曾氏圍



香港錦田吉慶圍

広東客家民居の類型





2. 客家民居の構成原理

風水の考え方

風水の類型(『建築文化』1986年5月号より)

風水のイメージスケッチ

龍巖市の風景(写真=研究グループ)

龍巖市の河原と橋のスケッチ

風水思想より見た中国清代城市の基本的形勢図

風水の考え方

格水型
格地水型

「後の朝」と隆と隆の生命の領域(『水電経』より)

●風水の町構成がある

例1/金山村住宅の門の向き

例2/水障路様式門の向き

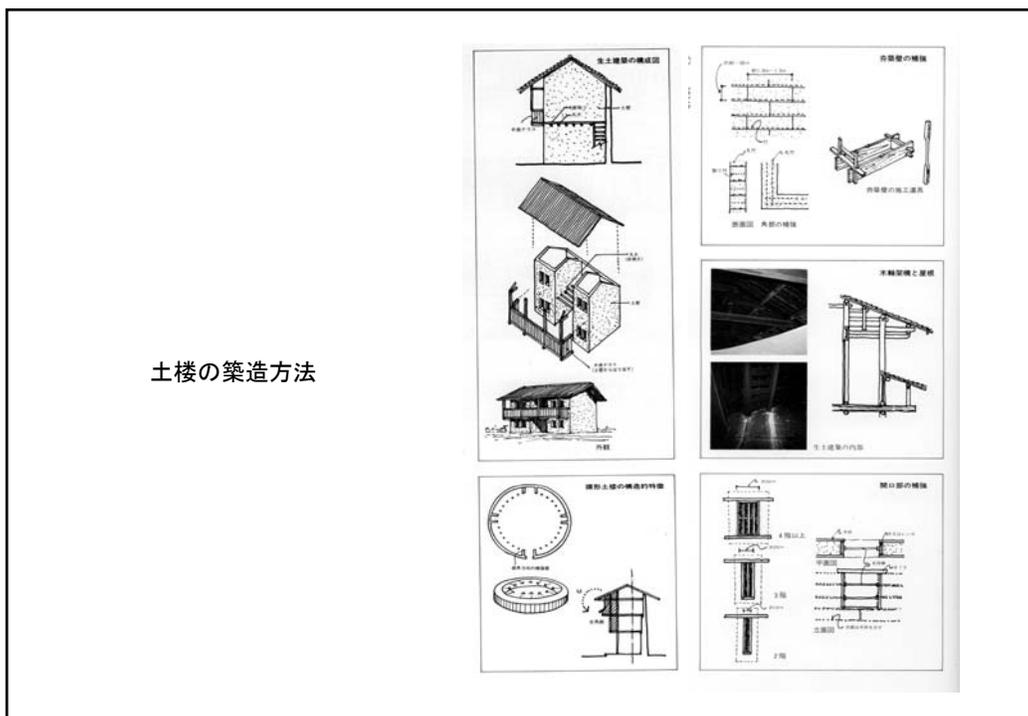
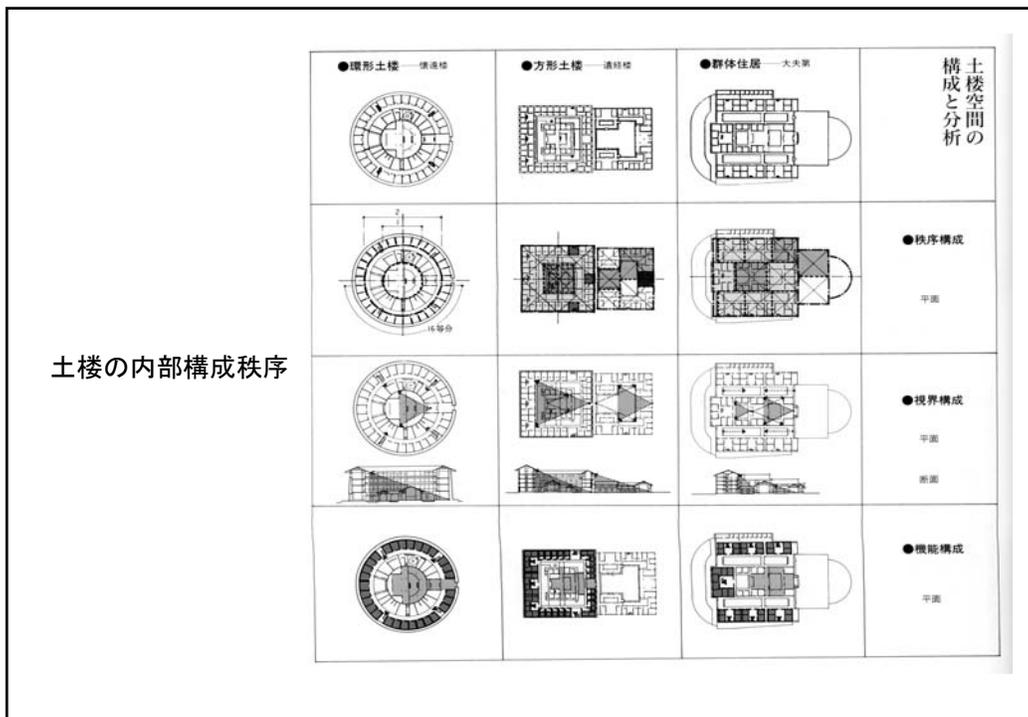
例3/中庭風水による断面構成

例4/龍巖村の断面

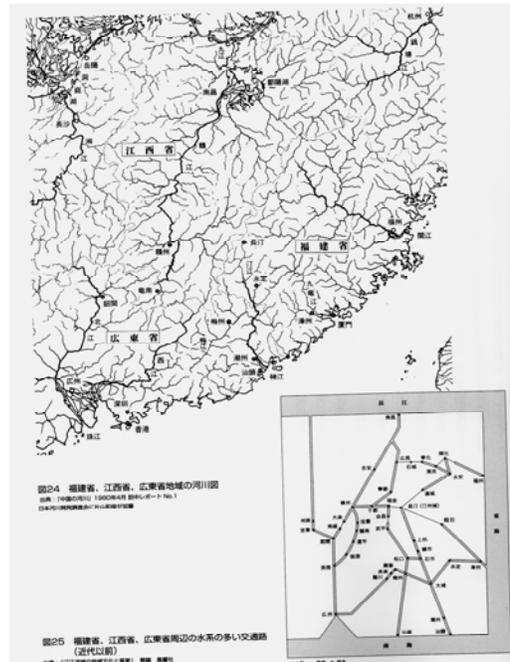
図16 風水による調整例

土樓のすまいの基本構成

<p>外部に対しては土壁の構築、内部は木材による軸組造、防湿に施した土壁、自然や通風を取り入れ、細かい生活行為への対応には木造という柔軟性が強い点がある。その結果外部からは、まさに城壁のように見える土壁が一輪して内部には木組みの彫刻の深い、スクールの細かな空間をもつ、その構成の対比が凝らされた。</p>	<p>●二つの素材と構造がある</p>	<p>西合院と同じように、厚壁という土壁で住居の周囲を囲み、内外の生活の差性を導く。同じことにより、壁の内側には内部の環境条件に左右されない、独自の自律的な世界が生まれる。伝統的な形式の群体住居では、住居単位を離れながら「隅」の対比として、連続した壁ではめ込まれた、一つの世界という印象は環状土壁の方が自ずから強い。</p>	<p>●固む</p>
<p>方、環状土壁と呼ばれるように、平面の全体を支配するのは幾何形態である。群体住居では軸組の構造上の制約が見られる。また、方、環状土壁では全体を一つの形態が分割され、生活空間の各部分を作り出す。ここには軸組での構造的安定性はない、あくまでも全体を通した全体の中心部分がある。</p>	<p>●単純な幾何形態をもつ</p>	<p>群体住居の平面のように、さまざまなバリエーションがあるが、基本的には対称性をもっている。門や窓の開口を中央に集中させる。その中心に居室が集中して取り囲まれる。ただし、前庭の門が軸組からずれて置かれている場合がある。周囲の環境条件を読み込んだ土壁の構築が求められる。また、複数の土壁が並列する場合は、各半の土壁の軸組は平行ではないようだ。</p>	<p>●中軸線がある</p>
<p>日本の尺や間のような寸法の基準は、はっきりしない。が平面の各所に単純な比例が見られる。例えば群体住居の平面は、環状土壁に幅をもつ。奥行きは幅の1/2が一般的。奥行きは半円形で、半壁が半壁の幅の1/2の長さで覆われている。また、環状土壁を構成するいくつかの間に扉が設置される。連続的に繋がるが見られる。</p>	<p>●簡単な比例をもつ</p>	<p>自然し、雨・風など自然を取り込む。内なる外部空間をもつ。西合院住宅の用事にあたる。この天井を構造として土壁の構造とする。暖かさを保ち、生活も育まれる。一般的には天井の中心に小さな植木の天井をもつ。ただし土壁が小さい場合は中心に植木を置かず、天井に植木を植える。アルコールに取られる。天井、切り取られた同じ窓の下に暮らしやすい環境を育むにこれ以上のものはないだろう。</p>	<p>●天井がある</p>
<p>壁で限定された土壁の内側では、境界の広がりは重要な要素の一つはなかったかと思われる。特に方形土壁では門や中庭など、重要な部分からの境界の開放は60度か90度の角のようになり定められる。また、門や窓の境界の広がりを狭くしないように、植木の大きさが決められていたことである。このように工夫の一つの表現としてあったはずであるが、多くの設計図を調べて観察されたように思う。</p>	<p>●視界の三角形がある</p>	<p>内部は、中軸線に近いほど公的性が強い。特に群体住居では、何層にも異なる空間の階層化が明確である。けれど環状土壁になると、その空間の階層化が弱くなる。その空間を中立的、私的な空間が取りまく環境になる。暖かさは全てであり、寒さは見えない。住居単位の間隔が強い群体住居と基本的に異なる点だが、その変化の理由は分らない。</p>	<p>●ヒエラルキーがある</p>



客家の人たちの生活手段／水系

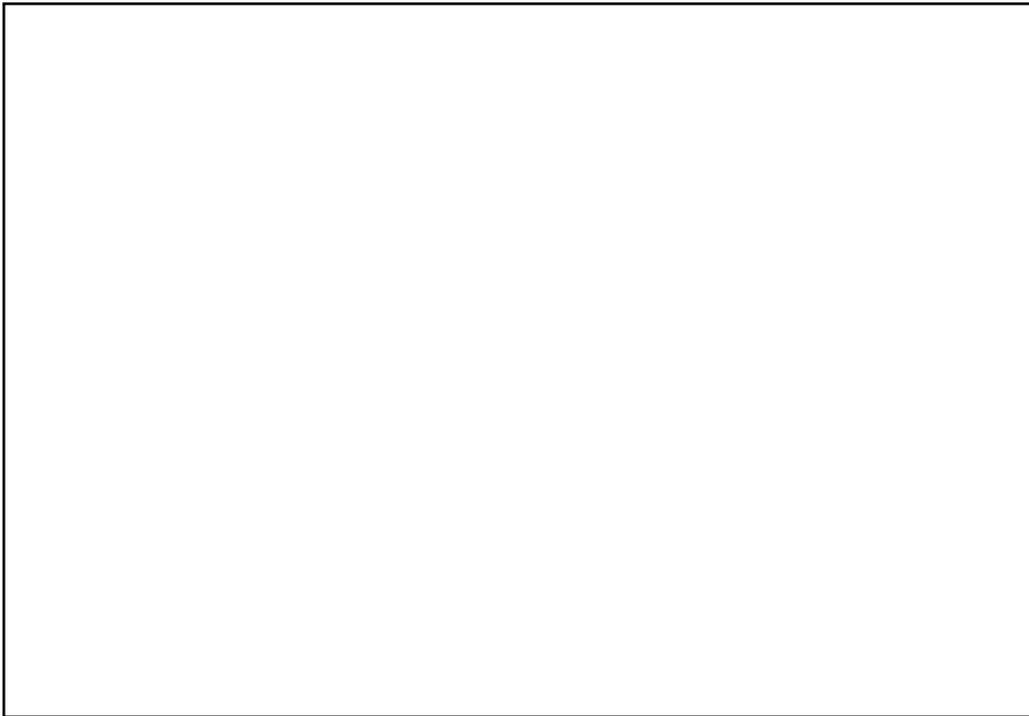


3.客家民居：設計への展開





中庭から見上げた円形の空



補足資料：以下は発表に使いません



町庭の家

